



キハ35・36 (首都圏色) セット



キハ30形 (首都圏色) (M)



キハ30形 (首都圏色) (T)



キハ35形 (首都圏色) (T)



TNカバー (SP) を取り付け、前頭部周辺の別パーツとして無線アンテナ、ジャンパホース、幌枠を付属、さらに踏切事故対策として、1975 (昭和50) 年度より取り付けが始まった前面補強板も選択式パーツとして用意しています。なお、ヘッドライトは既製品の「キハ35系」で再現したオリジナルの白熱灯1灯式に代わり、本製品では後年、2灯式シールドビームに改造された車両を再現しています。

(※1) 前面表示
「キハ35・36形セット」「キハ35形 (T)」:「普通 (白地)」「川越」「木更津・上総亀山」「京都・奈良」「木津・長尾」「五条・和歌山市」
「キハ30形 (M) / (T)」:「普通 (白地)」「大宮」「高麗川」「木更津・上総亀山」「茅ヶ崎・橋本」「松阪・新宮」



●「ON-OFFスイッチ」を備えるヘッド・テールライト、前面表示の点灯には電球色LEDを使用し、カラープリズムによってテールライトは赤色で、前面表示は白色に近い色で点灯します (写真では前面表示が非点灯)。この前面表示は印刷済みパーツに

よる選択式とし、白地のみものを装着、交換用として首都圏や関西地区などの行先や運転区間を印刷したパーツを付属しています (※)。また、モデルは各形式共に、前位側、後位側いずれにもボディマウント式密着連形



●トイレ無しのキハ36形 (上写真2点手前側) では、トイレ付きのキハ35形と異なる、後位側の妻面と同側面、そして床下周りの形態を、実車に則して再現しています。



●キハ36形は初期製造車の特徴である、乗務員ドア横の握り棒が両側共に同じ長さの形態を再現しています。また、この製品でも乗務員用ステップを取り付け、前位側台車の排障器は台車枠と一体で再現して、下回りをリアルに見せています。

国鉄キハ35系ディーゼルカーは、動力近代化のもと開発が先行した特急形、急行形に続く、一般形ディーゼルカーとして、1961 (昭和36) 年に登場しました。同系は特急形キハ80系、急行形キハ58系と同じDMH17H形エンジンを採用し、都市近郊の非電化線区における混雑緩和を目的に、通勤形電車101系と同様の両開きドアを片側3ヶ所に設け、このドアは台枠強度の観点から外吊り方式が採用されました。また、車体構造簡素化のため、前面は切妻構造となりました。キハ35系は両運転台のキハ30形106両、片運転台、トイレ付きのキハ35形258両、片運転台、トイレ無しのキハ36形49両の総数413両が新製され、キハ35形は我が国初のオールステンレスディーゼルカーとなった試作車10両が含まれていました。同系は同年12月より関西本線奈良-湊町間での営業運転開始を皮切りに、首都圏、新潟地区、九州地区を中心に配属されて活躍、JR各社にも引き継がれ、一部は私鉄に譲渡されました。

ハイグレード仕様の製品は、車体塗装の簡略化によって、ツートンの一般形ディーゼルカー色から、キハ40系で初採用の「首都圏色 (朱色5号)」に塗り変えられたキハ35系を、新規製作のキハ36形を加えた3形式で、新たにラインナップいたします。モーター車にはM-13モーターを採用したフライホイール付き動力ユニットを搭載、その他の各車には新集電システムを採用し、全車に黒色車輪を使用しています。また、セット、単品いずれも、転写シート (形式車体番号、所属標記、JRマーク) の他、前面表示パーツを付属しています。「首都圏色」のキハ35系と、特急形を除く既製品の国鉄ディーゼルカー各種と併せ、編成バリエーションがさらに増える国鉄時代の普通列車をお楽しみください。

キハ35系 ディーゼルカー (首都圏色)

- 国鉄 キハ35・36形ディーゼルカー (首都圏色) セット (2両)
＜98112＞ 予価¥11,660 (税込)
- 国鉄ディーゼルカー キハ30形 (首都圏色) (M)
＜9465＞ 予価¥7,920 (税込)
- 国鉄ディーゼルカー キハ30形 (首都圏色) (T)
＜9466＞ 予価¥4,840 (税込)
- 国鉄ディーゼルカー キハ35形 (首都圏色) (T)
＜9467＞ 予価¥4,290 (税込)

2023年1月発売予定

JR東日本商品化許諾済
JR東海承認済
JR西日本商品化許諾済
JR九州承認済